

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

あいさつ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009671

あいさつ

国立民族学博物館（みんぱく）は文化人類学・民族学とその関連分野の大学共同利用機関として1974年に創立され、1977年に開館しました。みんぱくには現在専任教員が52名在籍し、それぞれが世界各地でフィールドワークに従事しています。人類学関係の単体の教育研究機関として、世界全域をカバーする研究者の陣容と研究組織をもつという点で、みんぱくは世界で唯一の存在といえます。

一方で、みんぱくがこれまでに収集してきた標本資料は、現在、34万5千点を超えます。これは、20世紀後半以降に築かれた民族誌資料のコレクションとしては世界最大のものです。また、博物館施設の規模の上で、民博は、世界最大の民族学博物館となっています。

文化人類学分野の国際的中核研究拠点として、本館はこれまでに海外26大学・博物館、国内16大学・研究機関等と学術協定を締結し、機関間の共同研究や連携展示等の活動を展開してきました。本館ではまた、2019年度に、「現代文明と人類の未来」をテーマとする国際共同研究プロジェクト「特別研究」3件のほか、公募制の共同研究を26件実施しました。国際シンポジウム・ワークショップは31件開催しています。これらの研究集会への参加者、及び外国人教員や客員教員、外来研究員など本館を活用する国内外の研究者は1,193人にのぼります。こうした共同研究やシンポジウムの成果は、日本語・外国語の刊行物によって国内外に発信しています。とくに本年度は、世界の文化や芸術に関する映像番組や音声資料をそのまま論文と同様に掲載できる国際マルチメディア・オンラインジャーナル『TRAJECTORIA』を創刊したことが特筆されます。

研究資料の国際的集積・発信拠点として、本館では、現在、「人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築」というプロジェクトを推進しています。このプロジェクトは、国内外の大学・博物館のみならず、研究対象となる社会（ソースコミュニティ）との協働の作業に基づいて、本館所蔵の標本資料・映像音響資料を中心とした人類の文化資源に関する情報を蓄積し、その国際的な発信、交換、生成、共有化と世代を超えた継承を目指すものです。

2020年3月には、新世代型電子ガイドと、それと連動した新ビデオテークシステムの開発を完了し、展示場への展開を図りました。特別展、企画展、巡回展は、計11回開催しています。また、館内外での講演会、セミナー、研究公演、映画会などの広報活動も積極的に実施しました。以上の博物館活動により、2019年度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響による臨時休館があったにもかかわらず、前年比35%増の約29万2300人の観覧者を迎えることができました。

2019年9月には、ICOM（国際博物館会議）2019京都大会が開催され、本館も「博物館とコミュニティ開発」のセッションを組織する一方、世界の民族学博物館・コレクションの国際委員会 ICME のオフ・サイトミーティングを本館において開催しました。参加者から、本館の展示、保存科学の実践と国際的人材養成についてきわめて高い評価が寄せられ、博物館分野において本館が国際的に先導する位置にあることを改めて確認したところです。

グローバル化の急激な進展により、世界の諸地域の社会や文化は大きく変容する一方、文化間の摩擦も生起しています。さらに2020年初頭からは新型コロナウイルス感染症の地球規模での拡大により、社会の成り立ちそのものが問い直されるとともに、社会に潜在していた差別意識の浮上による世界の分断も生じています。異なる文化を尊重しつつ、言語や文化の別を超えて共に生きる世界を築きあげる上で、本館の果たすべき役割は今後ますます重要になると認識しております。

『研究年報』は、以上のような、みんぱくの教員の研究調査をはじめとする多方面の活動とその成果について、みなさまに知っていただくために編集されました。大学共同利用機関としてのみんぱくの一年間の活動を集約してお伝えするものです。

この『研究年報』は、従前、冊子体で刊行して参りましたが、情報環境の変化に合わせ、より多くの皆さまのお手元に直接お届けできるよう、一昨年度の『研究年報2017』から全面的なオンライン化を図っております。

本誌を通じ、みんぱくの活動をご理解いただき、今後とも、本館に対して、みなさまからのご指導とご支援をいただけますことを念願しております。

2020年3月
国立民族学博物館長
吉田 憲 司

